

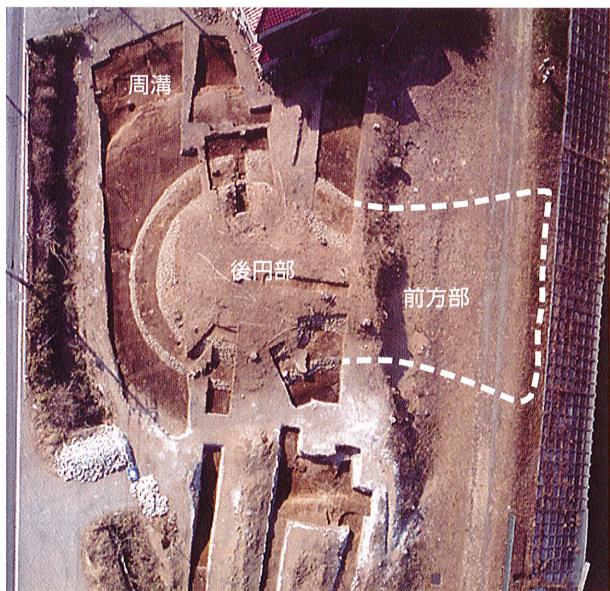
伊勢崎市指定史跡

一ノ関古墳

指定年月日：平成10年12月28日 所在地：伊勢崎市本関町

一ノ関古墳は伊勢崎市本関町に所在し、6世紀後半（約1400年前）に築造された前方後円墳です。しかし、東を流れる粕川によって前方部は削り取られてしまいました。周辺一帯は本関町古墳群を形成し、一ノ関古墳はその中のひとつです。

墳丘は上下二段の葺石をもち、その下段には幅7mほどの基壇面が広がっています。墳丘の外側には堀が巡っており、墳丘を造る際に三段築成を意識していることが想定されます。古墳の全長は不明ですが、後円部直径は34m、現存する墳頂までの高さは3.5mです。



一ノ関古墳全景



葺石の状況

お問い合わせ

伊勢崎市教育委員会 文化財保護課

〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2

電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673

E-mail:bunkazai@city.isesaki.lg.jp



本関町古墳群と一ノ関古墳

主体部は横穴式石室で、後円部の南側に開口しています。輝石安山岩を使用し、全長6m、高さは奥壁側で2mです。遺体を安置する玄室は羨道よりも一段低くなっています。石室前面には細長い前庭があり、墓道のような性格を持っていたものと考えられます。

出土遺物は円筒埴輪のほか、朝顔形埴輪、家形埴輪が出土しています。石室は玄室内から耳環、鉄鎌がわずかに出土しただけでした。また、前庭付近からは須恵器の高壺や提瓶が出土し、墓前祭祀が行われていたことがわかりました。

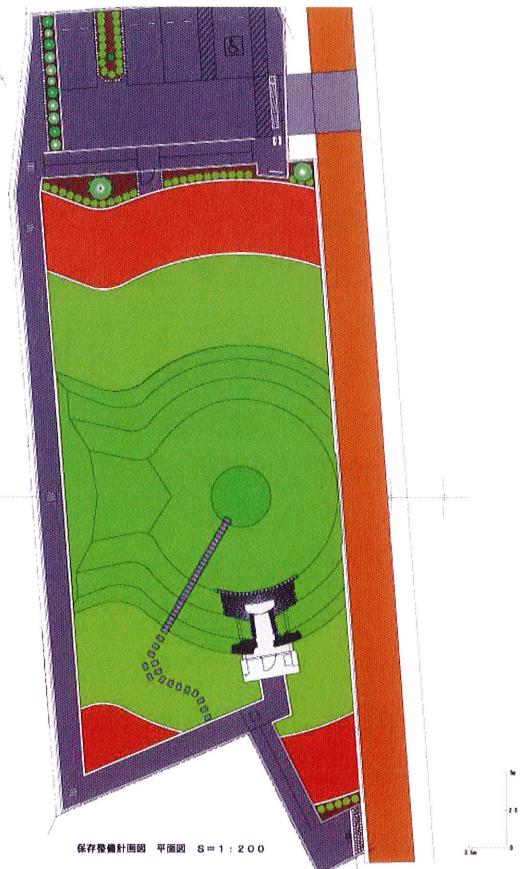


横穴式石室

一ノ関古墳は、昭和13年に刊行された「上毛古墳綜覧」に殖蓮村第71号古墳として記載されている前方後円墳です。昭和43年に伊勢崎市教育委員会によって発掘調査が行われ、以来石室の一部が露出したまま残されていました。

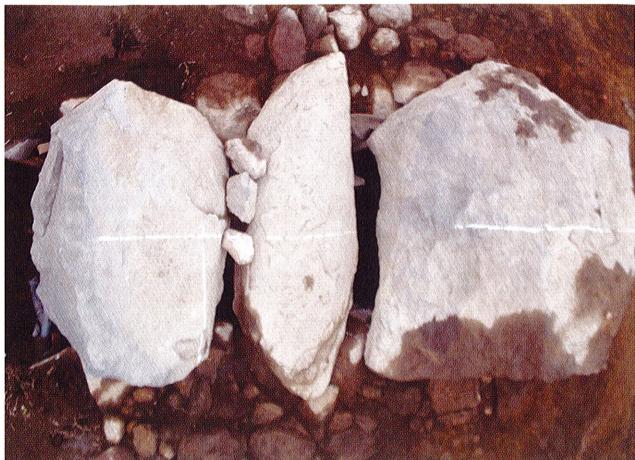
その後、平成10年12月28日に市の史跡に指定され、古墳を公園として活用するため史跡整備に伴う発掘調査が実施されました。

史跡公園整備にともない、石室は内部に向かって大きくたわみが生じていることから、一度解体し、欠落した石材を補充しながら発掘調査記録にもとづいて復元しました。前庭部は築造時のままの姿とし、保護のために見学施設を設けています。



葺石の状況

一ノ関古墳周辺には本関町古墳群や丸塚山古墳など数多くの古墳があります。古墳時代以降も郡の役所である佐位郡正倉跡や古代寺院である上植木廃寺などが集中し、古墳時代以降、伊勢崎の中心地域でした。一ノ関古墳史跡公園は、これらをネットワークし、地域の古代史を学習していくための拠点として活用されています。



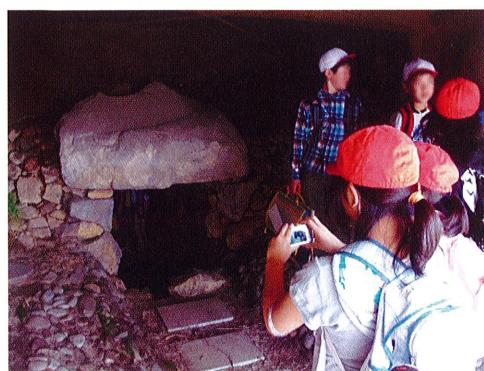
石室天井石検出状況



石室裏込め状況

主体部は横穴式石室で、輝石安山岩という石材を用い、造られています。大きいもので2tの巨石が使用されています。

石室は旧地表面を若干、掘りくぼめ、そこに側壁や奥壁の石を一段づつ積んでいきます。そして三段くらい積んだ後、外側に小石や砂利を詰め一番外側には石組をおこない側壁などが崩れないよう補強しています。この工程を繰り返し、最後に天井石をのせ、石室は完成します。



石室見学風景